



# 「いつもと違う 8 月」における 人の意識・行動

➤ 本調査内容に関する問合せ先  
電通総研：山崎、千葉、吉田  
E-mail [d-ii@dentsu.co.jp](mailto:d-ii@dentsu.co.jp)

クオリティ  
オブ  
ソサエティ

電通  
総研

電通総研は「クオリティ・オブ・ソサエティ」の活動の基盤として、「人びとの意識の変化がどのような社会を形づくっていくのか」を捉えるために「電通総研コンパス」と称して定量調査をおこなっています。

第1回調査は、2020年5月中旬に「いのちを守る STAY HOME 週間」についての意識や行動を把握するため、1都3県に住む人を対象に実施しました。結果、規制についての考え方を聞くと「外出規制などは“強制した方が良い”」と回答する人が多かったことや、人びとが「複合不安」の心理におかれ、年代を問わず外出自粛が浸透していたことが明らかになりました。

第2回調査は、緊急事態宣言が全国的に解除され、社会経済活動が段階的に再開しはじめた6月下旬に、北海道、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、大阪府、福岡県の8都道府県を対象に実施。政府よりも自治体の政策、施策や対応についての納得度や安心・信頼度が高いことがわかり、「新しい生活様式」の感染防止の基本3項目（身体的距離の確保、マスク着用、手洗い）の納得・許容度は86.7%でした。また、「これからの社会で大切だと思うこと」は、全年代で「他者への気遣い・思いやり」で、10-20代の若年層は「自分のスキルや情報を活かして社会や地域に貢献する」を大切にしたいという意識もみられ、新しい社会像があらわれる兆しを掴むことができました。

## 8月の視点（調査の目的）

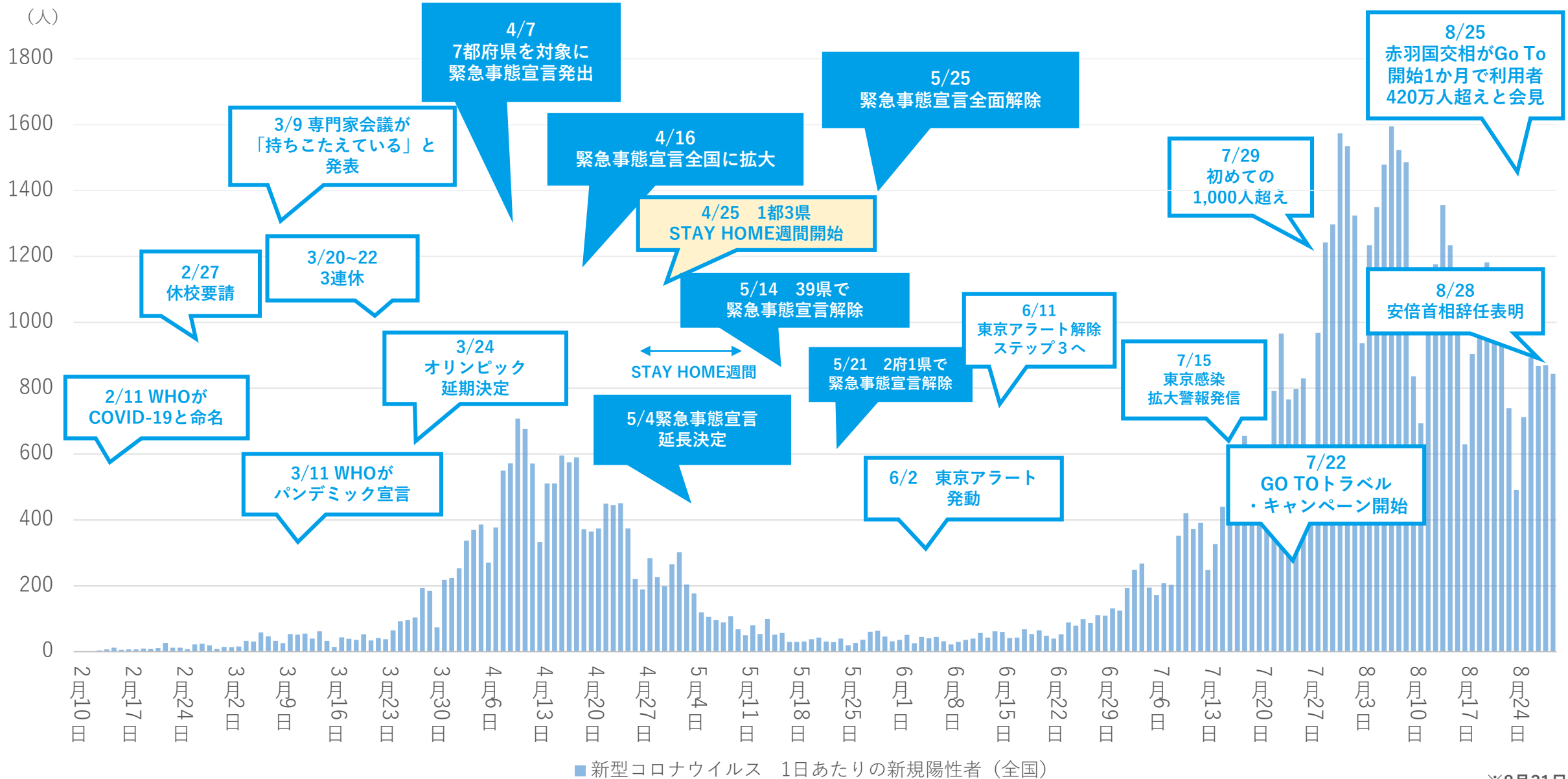
今回の第3回調査は、8月21日～22日にかけて「いつもと違う8月」における人の意識・行動調査を実施しました。

8月に入っても新型コロナウイルスの感染拡大は続き、東京都は、今年の夏を「特別な夏」として、お盆の帰省や旅行の自粛を呼びかけました。愛知県は、独自の緊急事態宣言（8月6日～8月24日）を発出し、お盆休み期間中の不要不急の行動自粛、県をまたいだ帰省を控えるよう要請。その他、急速に感染が広がった自治体でも、帰省や不要不急の外出の自粛を求めました。

一方で、7月22日から「GO TOトラベル」事業がスタート。政府をはじめ、いくつかの自治体では、帰省について、自粛を要請せず自己判断に委ねるという発表もありました。

5月の「いのちを守るSTAY HOME週間」の頃と比べて、各自治体で施策レベルに違いが生じており、行動を自粛するべきなのか、経済活動を優先させるべきなのか、自分で判断するしかなく、この夏は、改めて人びとの意識や行動にも注目が集まっています。

電通総研では、この「いつもと違う8月」が、例年と比べて人びとの意識や行動にどう変化を与えたのか、そして5月の「STAY HOME週間」時点との意識や行動の変化にも着目して、調査を試みました。



※8月31日時点

(参考) 新型コロナウイルスに関する8都道府県の8月の施策・対応

※2020/8/29 24時時点 (※陽性者の状況は空港検疫、チャーター便案件を除く国内事例)

都道府県 知事	新型コロナウイルス 感染者数：累計	自治体独自の施策（名称）やメッセージ	主な自治体の施策、対策の内容
東京都 小池百合子	20,569	感染拡大特別警報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お盆の帰省や旅行の自粛</li> <li>・東京都以外への外出の自粛</li> <li>・23区の飲食店などへの営業時間の短縮要請の延長</li> </ul>
神奈川県 黒岩祐治	4,848	神奈川警戒アラート (発動：感染拡大注意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの密を避けることはもとより、M「マスク/適切なマスクの着用」A「アルコール/手洗いやアルコール消毒の実施」S「しゃべり/アクリル板など仕切りによる遮蔽」K「きょり/ソーシャルディスタンスの確保」の徹底を呼び掛け</li> <li>・お盆の帰省は家族で事前によく話し合い、社会・経済活動を維持するため一人一人が徹底して用心してほしい</li> <li>・お店や施設がおこなっている「感染防止対策」を見える化するシステム「感染防止対策取組書」を導入</li> </ul>
千葉県 森田健作	2,994	県知事からメッセージ（会見） ※新型インフルエンザ等 対策特別措置法に基づく協力要請	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策が徹底されていない施設等への外出を控える</li> <li>・特に接待を伴う飲食店、酒類を提供する飲食店、カラオケが設置されているお店の利用は、感染防止対策の徹底を確認</li> <li>・酒類を提供する飲食店については、「3つの密」の回避、換気など、取組の徹底</li> </ul>
埼玉県 大野元裕	3,862	県知事からメッセージ（会見）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰省する場合は、いつも以上の感染症対策を。特に高齢者への感染防止に注意（3つの密を回避、手指消毒、マスク着用、十分な換気などを徹底）</li> <li>・大人数での会食・飲み会は自粛。新しい旅のエチケットに留意</li> <li>・上記の対応が難しい場合は、オンライン帰省を含め、慎重に検討</li> </ul>
北海道 鈴木直道	1,760	北海道スタイル集中対策期間 期間：8/1～9/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8-9月を「集中対策期間」として各事業者への働きかけを再度実施</li> <li>・8月1日～31日までは屋内外問わずイベントの開催制限を実施</li> </ul>
大阪府 吉村洋文	8,429	大阪モデル 「イエローステージ（警戒）2」 期間：8/6～8/20の対策例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5人以上の宴会・飲み会は控える</li> <li>・大阪ミナミ地区のうち、府が指定する区域で、酒類の提供を行う飲食店等に、休業や営業時間短縮（5時～20時）を要請</li> <li>・イベント主催者に対し、業種別ガイドラインの遵守を徹底するとともに、国の接触確認アプリ「COCOA」、大阪コロナ追跡システムの導入、または名簿作成などの追跡対策の徹底を要請など</li> </ul>
愛知県 大村秀章	4,412	緊急事態宣言 期間：8/6～8/24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お盆休み前後の期間の県境をまたぐ不要不急の移動自粛を求める</li> <li>・5～6人以上の会食・宴会の自粛も要請</li> <li>・「帰省についてはご家族で今一度相談していただきたい」と慎重な判断を求める</li> </ul>
福岡県 小川洋	4,412	福岡県コロナ警報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関に病床確保を急ぐよう要請</li> <li>・8月8日～21日の間は、接待を伴う飲食店や酒類を提供する店で利用客の滞在を2時間以内（1次会まで）と求める</li> </ul>

(参考) 新型コロナウイルス感染症お現在の状況と厚生労働省の対応について [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00086.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00086.html)

### ■第3回 調査概要

調査時期：2020年8月21日、22日

調査方法：インターネット調査

対象地域：北海道・1都3県（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）・愛知県・大阪府・福岡県

対象者：18～79歳男女 4,320人 ※高校生を除く

### ■設問一覧

- Q 1：今年の8月の夏休みの日数
- Q 2：今年の8月の夏休みの日数を、昨年の8月の夏休みと比べた場合の増減
- Q 3：夏休みの増減が新型コロナウイルスの影響を受けたかどうか
- Q 4：8月の移動に関して、新型コロナウイルスの影響で見合わせていること
- Q 5：8月時点での Go To トラベル・キャンペーン認知度・利用意向度
- Q 6：今年の8月に実際にしたこと。今後（も）したいと思うこと
- Q 7：新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、社会のことを考える機会に変化があったか
- Q 8：新型コロナウイルスの収束が見通せない中、自身の行動を判断するために、影響を受ける人は誰か
- Q 9：8月の自分や他人の行動をふりかえって、あなたの考えに近いもの

## ■今年の8月の夏休みの日数

Q1：今年の8月の過ごし方についてお伺いします。あなたは、今年の8月は何日間、夏休みを取りましたか。または、取る予定ですか。

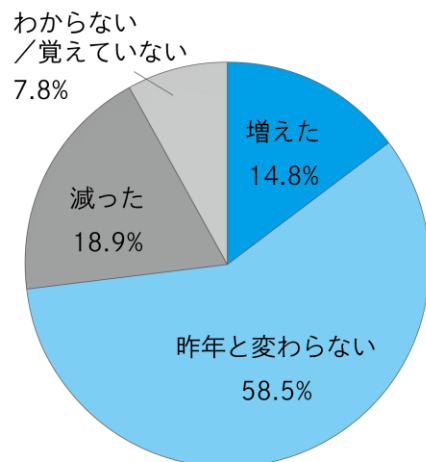
夏休みの平均は、**8.15日**

(N=4,320)

※専業主婦（主夫）、パート・アルバイト、学生、  
その他、無職を除いた場合**5.66日**

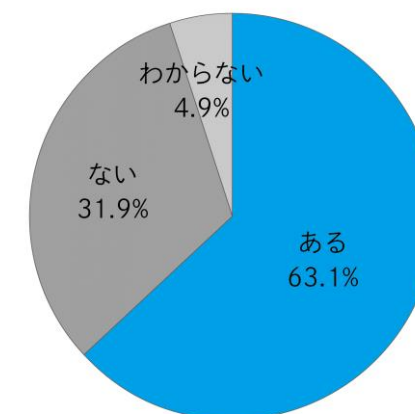
(n=1,456)

## ■昨年の8月の夏休みと比べた場合の増減

「昨年と変わらない」**58.5%**Q2：今年の8月の夏休みは、昨年の8月と比べて増減はありますか。  
（「増えた」「昨年と変わらない」「減った」「わからない／覚えていない」の  
4 択から回答）

(N=4,320)

## ■夏休みの増減が新型コロナウイルスの影響を受けたかどうか

コロナの影響が「ある」**63.1%**Q3：昨年の8月と比べて、今年の8月の夏休みが増減したことに、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響はありますか。（「ある」「ない」「わからない」の3択から回答）  
※Q2で「増えた」「減った」と回答した方を対象

(n=1,456)

## 【居住する都道府県外・海外での移動】宿泊を伴う国内旅行を見合わせた人が最も多かった（33.9%）

## ■ 居住する都道府県内での移動で見合わせたこと

1. 大人数での会食（33.8%）
2. 宿泊を伴う国内旅行（24.1%）
3. スポーツ観戦などのイベント参加や  
テーマパークなど多くの人が集まる場所に行くこと（22.4%）

## ■ 都道府県をまたぐ移動・海外への移動で見合わせたこと

1. 宿泊を伴う国内旅行（33.9%）
2. 日帰りの旅行（19.8%）
3. 帰省（18.5%）

Q4：今年の8月の移動に関して、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で見合わせた（見合わせている）こと、もしくは、やむを得ず見合わせなければならなくなった（なっている）ことはありますか。（複数回答）

## ■ 居住する都道府県内での移動で見合わせたこと

	(%)
大人数での会食	33.8
宿泊を伴う国内旅行	24.1
スポーツ観戦などのイベント参加やテーマパークなど多くの人が集まる場所に行くこと	22.4
日帰りの旅行	21.8
お盆の行事	19.3
高齢または幼齢の親族宅への訪問	13.4
帰省	12.6
仕事、出張	8.9
冠婚葬祭	5.3
その他	2.0

## ■ 都道府県をまたぐ移動・海外への移動で見合わせたこと

	(%)
宿泊を伴う国内旅行	33.9
日帰りの旅行	19.8
帰省	18.5
大人数での会食	16.8
スポーツ観戦などのイベント参加やテーマパークなど多くの人が集まる場所に行くこと	14.4
海外旅行	12.4
お盆の行事	11.6
高齢または幼齢の親族宅への訪問	11.2
仕事、出張	5.8
冠婚葬祭	4.4
その他	1.4

	(%)
特に見合わせた（見合わせている）ことはない	23.1

いつもと違う8月に「実際にしたこと」「今後（も）したいと思うこと」は、どちらも「家族との時間を大切にすること」と回答した人が最も多かった。「自宅でできる趣味や娯楽など楽しい時間の充実」を実際にした人が34.0%（3番目の回答率）、今後（も）したい人が34.7%（2番目の回答率）は、5月時点と同じ傾向だった。

Q6：全国各地域の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者数は、4月～5月にかけての全国的な緊急事態宣言の時期より、おおむね拡大していますが、8月にあなたが実際にしたことは何ですか。また、今後（も）したいと思うことは何ですか。（複数回答）

### ■実際にしたこと

1. 家族との時間を大切にすること（36.9%）
2. 人との接触を8割程度減らすこと（35.2%）
3. 自宅でできる趣味や娯楽など楽しい時間の充実（34.2%）

#### （参考）STAY HOME 期間中に実際にしたこと

1. 人との接触を8割程度減らすこと（56.5%）
2. 自宅でできる趣味や娯楽など楽しい時間の充実（49.1%）
3. 家族との時間を大切にすること（44.8%）

電通総研で2020年5月8日～10日にかけて1都3県を対象に実施した「いのちを守る STAY HOME 週間」意識・行動調査（N=1,000）

### ■今後（も）したいと思うこと

1. 家族との時間を大切にすること（39.2%）
2. 自宅でできる趣味や娯楽など楽しい時間の充実（34.6%）
3. 友人・知人とのつながりを大切にすること（25.7%）

#### （参考）STAY HOME 期間中に、今後（も）したいと思ったこと

1. 自宅でできる趣味や娯楽など楽しい時間の充実（51.4%）
2. 家族との時間を大切にすること（47.4%）
3. 料理や掃除などの家事の時間を楽しむ工夫（38.2%）

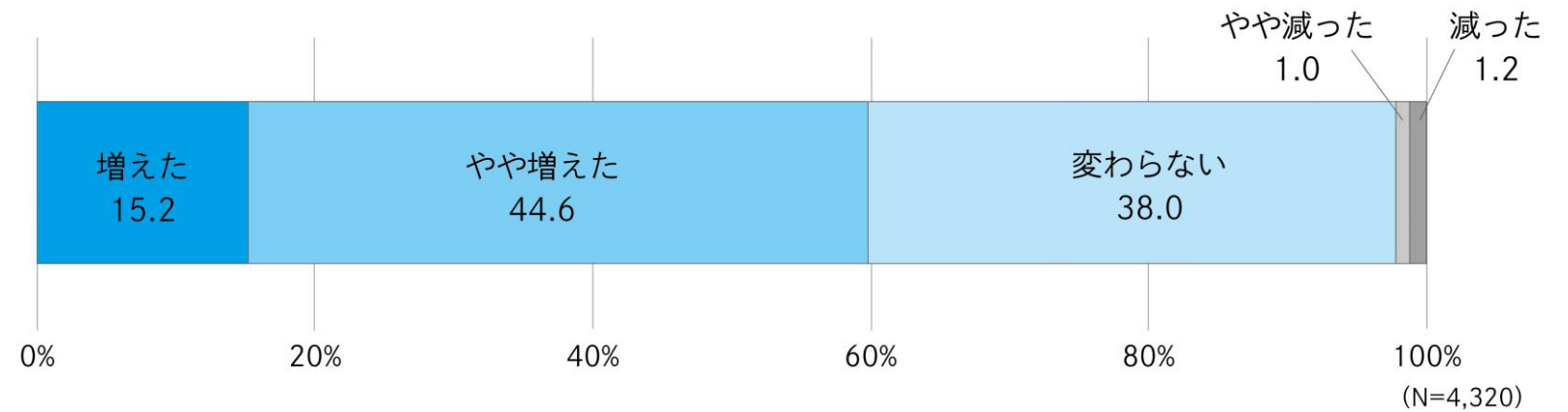
電通総研で2020年5月8日～10日にかけて1都3県を対象に実施した「いのちを守る STAY HOME 週間」意識・行動調査（N=1,000）

■新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、社会のことを考える機会は

# 「増えた」計 — 59.8%

※「増えた」「やや増えた」と回答した人の合計

Q7：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大をきっかけにして、社会のことを考える機会に変化はありましたか。  
（「増えた」「やや増えた」「変わらない」「やや減った」「減った」の5択から回答）



## ■ 影響を受ける人（あてはまる人すべて）

1. 家族（51.0%）
2. 友人、知人（30.8%）
3. 医療専門家（26.1%）

## ■ 最も影響を受ける人

1. 家族（33.1%）
2. 特になし（21.9%）
3. 医療専門家（9.5%）

Q8：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の収束が見通せない中で、自分の行動を判断するために、あなた自身が影響を受ける人は誰ですか。（あてはまる人をすべて回答。また、その中で最も影響を受ける人を回答）

## ■ 影響を受ける人（あてはまる人すべて）

（%）

家族	51.0
友人、知人	30.8
医療専門家	26.1
医療現場の医師や看護師	23.0
特になし	21.9
住んでいる都道府県の知事	17.5
政府（首相、官房長官など）	17.3
政府の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策本部	16.6
職場の上司や同僚	15.1
好きな芸能人・アーティスト・スポーツ選手	10.0
住んでいる地域の市区町村長	8.3
好きなYouTuberやインフルエンサー	5.2
その他	0.9

## ■ 最も影響を受ける人

（%）

家族	33.1
特になし	21.9
医療専門家	9.5
医療現場の医師や看護師	6.8
友人・知人	6.7
政府の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策本部	4.9
政府（首相、官房長官など）	4.3
職場の上司や同僚	3.8
住んでいる都道府県の知事	3.6
好きな芸能人・アーティスト・スポーツ選手	2.4
好きなYouTuberやインフルエンサー	1.8
住んでいる地域の市区町村長	0.7
その他	0.6

## （参考）

## STAY HOME 期間中、自身の行動を判断するために最も影響を受ける人

1. 家族（26.8%）
2. 特になし（20.7%）
3. 医療専門家（12.2%）

（%）

家族	26.8
特になし	20.7
医療専門家	12.2
医療現場の医師や看護師	9.1
政府（首相、官房長官など）	5.9
政府の新型コロナウイルス感染症対策本部	5.6
住んでいる都県の知事	5.6
職場の上司や同僚	4.1
友人、知人	4.0
好きな芸能人・アーティスト・スポーツ選手	2.1
好きなYouTuberやインフルエンサー	1.6
住んでいる地域の市町村長	1.4
その他	0.9

電通総研で2020年5月8日～10日にかけて1都3県を対象に実施した「いのちを守る STAY HOME 週間」意識・行動調査（N=1,000）

## ■他者の行動への許容度

感染リスクがある中、行動を抑制しない人を

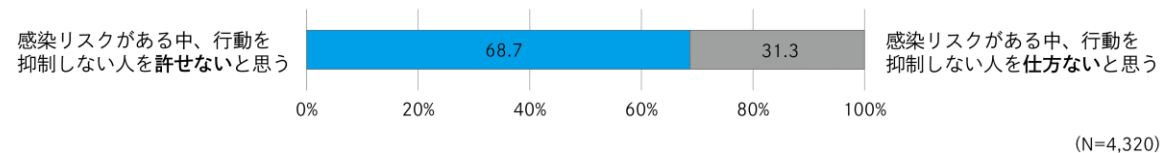
許せないと思う **68.7%**

※「Aに近い」「ややAに近い」計

感染リスクがある中、行動を抑制しない人を  
仕方ないと思う**31.3%**

※「Bに近い」「ややBに近い」計

Q9：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するあなたご自身の考え方について、お伺いします。8月の自分や他人の行動をふりかえて、あなたの考えはどちらに近いですか。（「Aに近い」「ややAに近い」「ややBに近い」「Bに近い」の4択から回答）



## ■5月の「STAY HOME週間」時点との比較（参考）

行動を抑制しない人を

許せないと思う **+16.2pt**

（参考）

STAY HOME 期間中、感染リスクがある中、

行動を抑制しない人を **許せないと思う 53.6%**

電通総研で2020年5月8日～10日にかけて1都3県を対象に実施した「いのちを守る STAY HOME 週間」意識・行動調査（N=1,000）

## ■規制に対する考え方

行動を抑制するには、

法などで

規制した方がよい **70.3%**

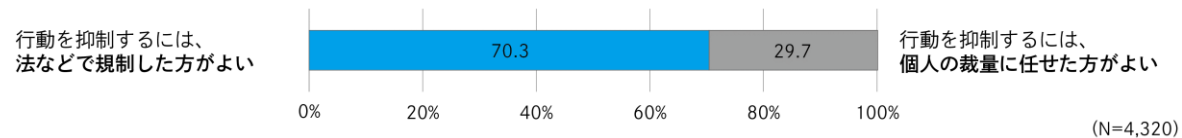
※「Aに近い」「ややAに近い」計

行動を抑制するには、

個人の裁量に任せたほうがよい **29.7%**

※「Bに近い」「ややBに近い」計

Q9：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するあなたご自身の考え方について、お伺いします。8月の自分や他人の行動をふりかえて、あなたの考えはどちらに近いですか。（「Aに近い」「ややAに近い」「ややBに近い」「Bに近い」の4択から回答）



## ■5月の「STAY HOME週間」時点との比較（参考）

行動を抑制するには

規制（強制）した方がよい **+4.9pt**

（参考）

STAY HOME 期間中、外出規制などは

罰則を与えるなどして 強制した方がよい **65.4%**

電通総研で2020年5月8日～10日にかけて1都3県を対象に実施した「いのちを守る STAY HOME 週間」意識・行動調査（N=1,000）

Q9：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するあなたご自身の考え方について、お伺いします。8月の自分や他人の行動をふりかえって、あなたの考えはどちらに近いですか。  
 （「Aに近い」「ややAに近い」「ややBに近い」「Bに近い」の4択から回答）

■飲食店への許容度

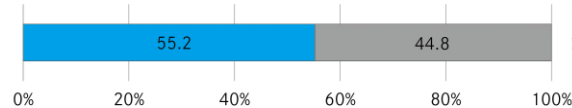
飲食店が休業要請や営業時間短縮要請に従わないことは  
**仕方ない**と思う **55.2%**

※「Bに近い」「ややBに近い」計

飲食店が休業要請や営業時間短縮要請に従わないことは**許せない**と思う **44.8%**

※「Aに近い」「ややAに近い」計

飲食店が休業要請や営業時間短縮要請に従わないことは仕方ないと思う



飲食店が休業要請や営業時間短縮要請に従わないことは許せないと思う

(N=4,320)

■感染拡大防止と経済活動活性化への考え方

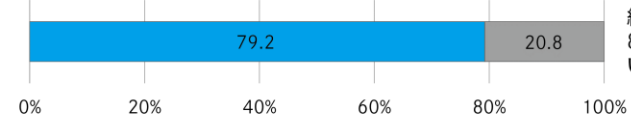
感染拡大防止のために、8月は  
**行動を抑制しない**といけ**ない**  
 と思う **79.2%**

※「Aに近い」「ややAに近い」計

経済活動活性化のために、  
 8月は行動を抑制しては**いけ**ないと思う **20.8%**

※「Bに近い」「ややBに近い」計

感染拡大防止のために、8月は行動を抑制しないといけ



経済活動活性化のために、8月は行動を抑制しては

(N=4,320)

Q9：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するあなたご自身の考え方について、お伺いします。8月の自分や他人の行動をふりかえって、あなたの考えはどちらに近いですか。  
 （「Aに近い」「ややAに近い」「ややBに近い」「Bに近い」の4択から回答）

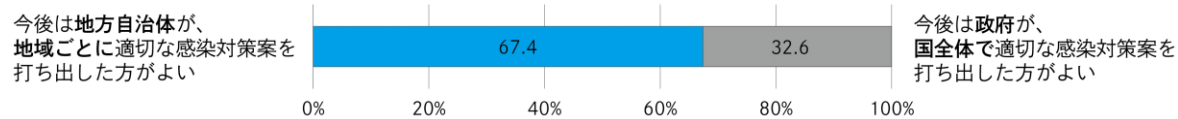
■国と自治体への考え方

今後は **地方自治体が、  
地域ごとに適切な感染対策案を  
打ち出した方がよい** **67.4%**

※「Aに近い」「ややAに近い」計

今後は **政府が、国全体で適切な感染対策案を  
打ち出した方がよい** **32.6%**

※「Bに近い」「ややBに近い」計



(N=4,320)

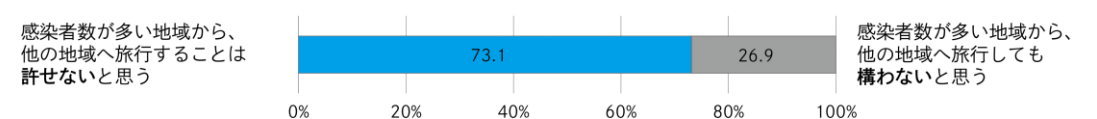
■感染者数が多い地域からの旅行への許容度

感染者数が多い地域から、  
他の地域へ旅行することは  
**許せないと思う** **73.1%**

※「Aに近い」「ややAに近い」計

感染者数が多い地域から、他の地域へ旅行しても  
**構わないと思う** **26.9%**

※「Bに近い」「ややBに近い」計



(N=4,320)

## ■ 「いつもと違う8月」における人の意識・行動について

今回の第3回調査では、8都道府県を対象に、新型コロナウイルス感染の収束がみえないまま「いつもと違う8月」を過ごした人の意識や行動の変化に着目しました。

調査の結果、「8月の移動に関して新型コロナウイルスの影響で見合わせたこと」などの設問から、8月は人びとの感染への不安が根強かったことがうかがえました。

一方で「飲食店が休業要請や営業時間短縮要請に従わないこと」について、「仕方ないと思う（55.2%）」が「許せないと思う（44.8%）」を上回る結果になるなど、事業者の苦境に配慮する傾向も見られ、人びとが感染防止と経済活動の両立の必要性を感じていることが読み取れます。

また「今後は地方自治体が、地域ごとに適切な感染対策案を打ち出した方がよい（67.4%）」が「今後は政府が、国全体で適切な感染対策案を打ち出した方がよい（32.6%）」を上回りました。さらに「自身の行動を判断するにあたり最も影響を受ける人」は「家族」と答えた人が最多となりました。

感染拡大第一期から約半年を経て、人びとが、地域の感染状況や社会経済活動の状況に細やかに対応する施策の推進を求め、自らの判断によって適切な感染対策と社会経済活動を両立する意識を高めはじめたように思われます。

電通総研では、これからも、社会状況による人びとの意識・行動の変化に着目し、よりよい社会のための兆しをみつけるべく「クオリティ・オブ・ソサエティ」の活動を推進してまいります。